

第16回 河内長野市地域公共交通会議録

会議名称	第16回 河内長野市地域公共交通会議
開催日時	平成25年3月5日(火) 午後3時～
開催場所	河内長野市役所 501会議室
公開・非公開の別 (非公開とした 場合はその理由)	公開
傍聴者	0人
出席委員	別紙出席者名簿のとおり
会議次第	<ul style="list-style-type: none"> (1) 河内長野市地域公共交通会議について (2) 大阪南医療センターでのアンケート調査結果について (3) モックルコミュニティバス上限200円運賃の試行運行状況について (4) 楠ヶ丘地域乗合タクシーのアンケート結果等について (5) バス利用の手引き・バスマップの作成について (6) 平成25年度河内長野市地域公共交通会議予算(案)について (7) その他
会議内容	別紙会議内容のとおり

第16回 河内長野市地域公共交通会議内容

発言者	会議内容（要旨）
事務局 （水上主査）	<p>只今から、平成24年度第16回河内長野市地域公共交通会議を開催させていただきます。本日の出欠状況ですが、棕本委員、田中委員につきましては、欠席されると伺っております。また、本日は川端委員の代理といたしまして、太田様に出席いただいております。内見委員については少し遅れると伺っております。この後の議事進行につきましては、会長よろしくお願いいいたします。</p>
向井会長	<p>皆さん改めましてこんにちは。 初めに、規則の規定によりまして、委員の半数以上の出席をいただいておりますので、会が成立していることをご報告申し上げます。また、この会議は規則の規定によりまして、公開とさせていただきますので、よろしくお願いいいたします。</p>
向井会長	<p>【議題1】 それでは、議題に入りたいと思います。議題1の河内長野市地域公共交通会議について、事務局から説明をお願いいたします。</p> <p>（事務局より、河内長野市地域公共交通会議について、資料1の説明）</p>
向井会長	<p>附属機関の設置という条例に基づきまして、河内長野市地域公共交通会議が定められ、皆さんに改めて委嘱状をお渡しした次第でございます。この件について何かご質問等ございますでしょうか。</p>
向井会長	<p>【議題2】 それでは次の議題2に移らせていただきます。 議題2の大阪南医療センターのアンケート調査結果について、よろしくお願いいします。</p> <p>（事務局より、大阪南医療センターでのアンケート調査結果について、資料2の説明）</p>
向井会長	<p>大阪南医療センターの来院者の方にアンケート調査をしたということで、ご覧のような結果となっております。改善点等他にございましたら、お願いいいたします。</p>

日野副会長	<p>単純な質問ですが、無回答の人が4割もいらっやって、普通の調査にしては多すぎるとも思いますが、何か原因は考えられるのでしょうか。仮に無回答を除外するとすれば、先程15%程度が利用しているという話でしたが、それが必ずしも正しいかどうかわからなくて、無回答を除外すれば3割や4割となりますので、モックルバスや千代田線の利用実態ということを考えますと、15%と言い切ってしまうのはどうかと思います。そのあたりの情報があれば、教えていただけたらと思います。</p>
事務局 (松坂)	<p>毎年医療センターさんで行われているアンケートに、新たに追加した項目ですので、公共交通に関心のない方もおられたかなと思います。無回答の多さというのはそういうところかと思います。15%の利用というところは、一つの目安として捉えているので、参考程度に考えております。</p>
日野副会長	<p>公共交通の改善策を検討する際に、どのくらい改善できるか、どのくらい利用者の増加が見込めるかなど、そういったことが評価になると思います。参考は参考でいいのですが、1割ぐらいしか使っていないと考えるのか、無回答が多くて、もう少し実態としてはありそうということも含めて考えるというのは、かなり印象や説得力が違うと思います。見方、表現の仕方を少し憂慮いただいたほうがいいのかと思います。</p>
向井会長	<p>これは設問の仕方に何か問題点はないのですか。</p>
事務局 (松坂)	<p>来院者と入院されている方にもお聞きしていますので、その部分で無回答というのものもあるかもしれません。</p>
松本委員	<p>医療センター側のアンケートの量が多く、最後にこのアンケートがついていました。私も書いてみたのですが、チェックしようか、しないでおこうか、という方がかなりおられたのではないかと思います。医療センター側のアンケートが主になっていた、ということではないかと思います。</p>
向井会長	<p>次回改善することにしましょう。それでは、大阪南医療センターの件はよろしいでしょうか。いろいろな取り組みで、できるだけ乗っていただこうと模索していますが、このような実態ということです。</p>
向井会長	<p>【議題3】 次に、モックルコミュニティバスの上限200円運賃の試行運行の状況について、事務局お願いいたします。</p>

	<p>(事務局より、モックルコミュニティバス上限200円運賃の試行運行状況について、資料3の説明)</p>
向井会長	<p>モックルバスの2月のデータをご紹介していただけますか。</p>
事務局 (水上主査)	<p>2月でございますが、4,864人の乗車数となっております、前年が5,015人、前年比は97%となっております。これにつきましては、昨年は今年より1日多かったということで、2月28日までの比較ですと、少し増加しております。1月末までの24年度の見込みは1%の増加なのですが、今の段階ですと0.7%の増加となっております。</p>
向井会長	<p>先程、説明がありましたように、伸び率が減ってきているということです。乗られる方の圏域の人口や高齢者の状況、自動車免許を手放されている方など、トータルで予測できればいいと思うのですが、皆様のご意見をお伺いしたいと思います。</p>
中谷委員	<p>毎年の伸び率は下がっているものの、上限200円運賃を試行して、15%増加していることはありがたいと思うのですが、収支の改善についての資料がありましたらお願いします。</p>
事務局 (野之上主幹)	<p>正確な資料はありませんが、当初試行を始めたときには、乗車率が3割程度上がれば、収支が賄えるということで考えておりました。まだ元々の収支を改善するまでには至っていないのが現状です。</p>
日野副会長	<p>病院に行かれている方が非常に多くて、それを考えるとそんなに増えないかもしれません。公共交通を考えると、需要が今の範囲内でほぼいっぱいという状況にあることで、これからは高齢者になったときに、病院だけ行くのではなく、いろんなところに出かけることが大事になってくると思います。本来はバスだけ動かすのではなく、どこかに行く目的というものを作る。そこに行くのがバスであるということにならないと、乗車は増えないと思っています。前々から私が申し上げております、同伴者の割引などで、高齢者ご夫婦、お年寄りと子どもといった組み合わせで、いつも病院ではなく、たまにはどこかへ行くなど、違う目的の増加を期待できるのではないかと思います。収支はともかく、固定されている病院利用だけではない利用が、少しは掘り起こされる部分があるのではないかと思います。そうすることが利用者数の増加につながるのではないかと思います。そういう意味で、目的などは聞いていますか。</p>

事務局 (松坂)	同伴の目的については、今回はお聞きしておりません。
日野副会長	考えられるのは、高齢者の方が通院するのに、どうせ運賃は無料だから誰か一緒に行っておあげよう、たまのことだから孫でも連れて行こうなど、いくつかパターンが考えられるのですが、もし機会があれば、そういったところをもう少し調査してもいいのかなと思います。おじいちゃんと一緒に病院に行って、その間に少し買物をしたり、帰りに一緒にどこかへ行くなど、そういうことが増えたらと希望的観点から申し上げていますが、何よりもお年寄りや孫であったり、家族のコミュニケーションの促進に期待できる部分が非常に大きいのではないかと思います。具体的に実施されることは期待しているのですが、裏付けるのであれば、そのあたりのことももう少し調査をいただけたらいいのではないかと思います。
向井会長	実際に日曜日に同伴者割引をしている団体、バス会社さんなどはあるのですか。
日野副会長	ある市で、やろうと相談がありましたが、議会の説明がうまくいかなかったようで、そこで止まっているようです。高齢者支援だけで言うと、どうなのかなと思います。なので、申し上げたように、複合的なプラスアルファを考えてやってみるということで提案された方がいいのではないかと思います。そういう意味では、私の知っている範囲で他にないと思います。先進的事例ということになるのではないかと思います。
向井会長	アンケートを丸一日乗り込んで、毎年同じ定点で実施していますが、今回の日曜日の同伴者割引については、25年度からやってみようという動きで進めているのでしょうか。
事務局 (水上主査)	12月のこの調査で項目を追加して、実施させていただきました。日野先生にご指摘いただいたように、もう少し同伴者の目的などをお聞きしたいのですが、乗車しながら聞き取りをするので、質問数としては、このあたりが限界かと思っています。なんとか25年度に同伴者割引を実施したいと思っていますので、そのための参考データとして、今回質問させていただきました。
向井会長	今、日野先生がおっしゃられたように、こうすれば楽しみが増えるといった案内などをうまくすれば、きっかけとして乗車につながるのでしょうか。認識が浅くて話題がそれますが、バスの定期券を持っておられる方が市内で土

	日に家族と利用すると、100円を払うだけでしたか。紹介していただけますか。
南海バス	市内だけでなく、南海バスの通勤定期券を見せていただきましたら、そのご家族は、大人100円、子供50円で乗っていただけます。
向井会長	利用者はたくさんいらっしゃるのですか。
南海バス	集計はとっておりませんが、よく見かけます。
向井会長	本市の場合はニュータウン、団地にお住まいの方が定期券を持っておられて、休日にそれを利用していただいて、いろんなところに出かけていただく、公共交通を利用するきっかけになるいい仕組みだと思います。日曜日に利用できて、家族の絆を深めるものなどがあっても面白いのかなと思います。
日野副会長	環境定期券で言うと、大阪府さんで他のバス会社さんもやっていますよね。
進士委員	やっているところは多いです。
日野副会長	あまり通勤定期を持っておられる方もいないかと思いますので、もう少し家族で支え合う、楽しみ合うのもよしということで期待したいと思います。
進士委員	調査の中で、日曜日に同伴者が無料になれば利用されますか、という設問をされたと思うのですが、実際のところ平日乗っておられる方が、日曜日にも利用されていたのかということと、乗っておられる方は、ほとんど一人で乗っておられるのか、同伴で乗られているのか、そのあたりを教えてください。
事務局 (松坂)	平日に調査をしまして、その方々が、普段日曜日にも利用しているかということは聞いていないので判断しにくいのですが、平日の利用と比べて、日曜日の利用は半分程度ですので、平日も日曜日にも両方利用されている方というのはそう多くないと思っております。また、病院の利用がかなり多いので、日曜日の利用はまた別なのかなと思います。同伴で乗られているかについても聞いていませんが、一人で買い物に行かれる方が目立っていた印象がございまして、今の時点で同伴で乗られているということはあまりないと考えております。
進士委員	大阪府でも以前、バスエコキャンペーンということで、子供同伴無料ということがありましたが、バス事業者さんによっては減収になるというご意見を

日野副会長	<p>いただいておりますが、今、中止していますが、大変面白い取り組みですので、やっていただきたらと思います。</p> <p>もう一点だけですが、私はもともと平日もやってほしいと思っております、平日の通院というのが、日曜には病院へは行きませんね。目に見えて乗車が増えるというのは、一人で通院ということではなく、おばあちゃん一緒に行こう、などのような形を期待するとしたら、平日だと思えます。日曜日だとどちらかというと病院以外ですので、普段行っていないが、一緒に買い物でも行こうか、ということですので、実数的にはあまり多くないのかなと思えます。高齢者の方と子供さん、お孫さんが付き添いという形を期待するとしたら、平日の方が期待できる量は多いのではないかと思います。事務局が、この25年度の計画を出されたときに、とりあえず試行として休日やってみようというお話でしたので、それはそれなりに意味があると思っております。これが試行して評価されるときに、数が少ないからやめておこうということになるかもしれません。その際には日曜日にはもともと病院の利用などが少ないので、あまり短絡的に判断するよりは、もう少しそういったことも含めてご検討いただいたほうがいいのではないかと思います。</p>
黒田委員	<p>平日と休日の利便性の違いを、どのように埋めていくかということですが、一つの例で申し上げますと、箕面市さんが公共交通会議をされていますが、コミュニティバスがありまして、収支率が3割程度と成績がいいのですが、そういうところでも、平日と休日にかかなりの差がありまして、非常に苦勞されています。平日というのは通院、通勤であるとか、むしろあそこは通勤の方が多いため、そういう利用者の方を捉えて進めている部分もありますが、そういうところと、休日は病院はやっていません。だから目的をどこにおくかということ。箕面市さんを例にしますと、日曜日には買物バスということに限定をして、これから進めようとしてされています。まだ具体的に動いているというわけではありませんが、おそらく来年度に実施されるとお聞きしております。そこで買物の顧客をターゲットにして、平日のルートと休日のルートを変えています。平日であれば、通勤客があり、病院などのポイントがあります。休日の場合のポイントはどこかということを見直して、買物が主体となるということであれば、商業施設、駅なりをつなぐような計画を立てる、それもいいか悪いかは難しいところもありますが、平日と休日の運行経路が変わるとなると、利用者にとってはややこしいということになります。どれだけの周知ができるのかということになってくると思えます。箕面市の動きを少し注視していただければいいかと思います。目的にあった形で、その目的と合ったところと協働したような取組み、例えば、地元の商店街とタイアップするなど、お互いの集客を図るようなことができるようにうまく組</p>

事務局 (水上主査)	<p>み合わせていけば、平日とは違った動きも見えてくるのではないかと思います。そういう点で言えば、箕面市さんが取り組んでいる、買物バスがどういう形に出てくるのか、参考になるのではないかと思います。</p> <p>今のように、いろいろご意見をいただきまして、実際平日しか調査をしておりませんので、同伴者割引を25年度に実施するという上で、日曜日の乗込調査もやってみたいと思います。日曜日のお客さんの利用目的など、そのあたりを調べたうえで、また分析させていただきまして、次回の実施を考えていきたいと思います。</p>
向井会長	<p>ありがとうございます。この件につきましてはよろしいでしょうか。</p>
向井会長	<p>【議題4】 それでは、議題の4に移りたいと思います。楠ヶ丘地域の乗合タクシーのアンケート結果について、事務局よろしく願いいたします。</p>
向井会長	<p>(事務局より、楠ヶ丘地域乗合タクシーのアンケート結果等について、資料4の説明)</p> <p>まず、資料4-1のアンケート結果について、お気づきのことなどございませんか。これは何回目の調査になりますか。前は24年の春頃行っていますね。</p>
事務局 (松坂)	<p>アンケートは24年の6月に実施しております。本格運行が始まってからは2回目ですが、評価指標を把握するために実施したのは、今回が初めてでございます。</p>
向井会長	<p>配布枚数2, 240枚というのは、楠ヶ丘の各家庭、世帯でしょうか。</p>
事務局 (松坂)	<p>世帯の人数分、例えば2人暮らしであれば、2枚配っていただいております。</p>
向井会長	<p>小さいお子さんなどがいればどうなっていますか。</p>
事務局 (水上主査)	<p>10歳以上限定でアンケートに答えていただいております。</p>
向井会長	<p>10歳以上の方に、自治会の方が人数分配ったということですね。</p>

事務局 (野之上主幹)	<p>期間の設定というのはどのようになっておりますか。</p> <p>このアンケートは11月の終わりに、市の方から楠ヶ丘の自治会を通じて配布しまして、12月16日までに回収してくださいということで、集めたものです。</p>
向井会長	<p>アンケート調査の結果については、買物、通院に行かれる方は、乗合タクシーがなくなれば大変困るということで、また、高齢になるほど、なくなれば大変困るというのは確かにそうかもしれません。アンケート結果についてはよろしいでしょうか。</p> <p>資料4-2の停留所の変更について、何かご質問はありますか。</p> <p>烏帽子台は若い世代が住んでおられる地域で、子育て中の人たちのニーズも捉えていこうということで、是非多くの方が利用いただけたらと楽しみにしております。</p>
日野副会長	<p>参考なのですが、大学の学生も調査をさせていただき、この地区も皆さん頑張っておられて、使わないといけない人は使っておられるという状況ですが、新たな需要をどこに求めるかということですね。それには楠ヶ丘地区に限らず、周辺の地区の人たちにも使っていただくことが必要ではないかと、今日は資料を持って来ておりませんが、調査した結果を見ると、楠ヶ丘以外の地域の人たちは、どう改善したら乗合タクシーを使うかという質問に対して、停留所の位置という回答が多かったんですね。調査の結果も踏まえれば、停留所を新たに設置するという事は、楠ヶ丘以外のここで言うと烏帽子台の需要をある一定期待できるのではないかと思います。</p>
宮川委員	<p>2月に市長まちかどトークが楠ヶ丘地域でございまして、このときにくすまるへの市の支援について、かなり意見がありました。意見の一つとして、例えば、起点、終点が三日市町駅となっております、そこを通過する場合に2回カウントされてしまい、400円も支払わなければならないということで、要は三日市町駅前から乗られて、9番で降りられる方につきましては200円ですが、途中の番号から乗られて、三日市町駅を通りすぎて、違う番号で降りられるときは、200円×2で400円になってしまっているということです。そのあたりの改善をできないのでしょうかということでした。これは収益が下がることになりますので、なかなか難しいのではないかと思います。</p>
日野副会長	<p>それはどのような利用形態なのでしょう。降りるのを忘れたということでしょうか。</p>

事務局 (井上課長)	<p>地域のお話をお聞きしますと、5番に集会所があります。集会所に行くために、例えば、8番から乗って、終点の三日市町駅を通り過ぎて5番に行かれるというような利用をされるお年寄りの方がおられるということです。よくお話を聞きますが、ルートの的には大変難しいということですし、それができないのであれば、逆ルートを作ってほしいといったお話もごさいます。これもまた、いろいろな運行上の問題点がございまして、今のところはこのままの状況でお願いしたいということをお願いしております。</p>
向井会長	<p>いろいろな利用の仕方がありますね。やはり自治会では非常に期待をされているということで、より一層使いやすい形にということですね。</p>
宮川委員	<p>運賃収入が非常に高く、おそらく経費が800万、運賃収入が500万円ぐらいにはなっているかと思しますので、7割近くの収入がありますので、存続に向けて協力をお願いしたいということでした。</p>
向井会長	<p>資料4-4の評価指標に移りたいと思います。宮川委員からありましたように、地元の方が非常に期待されていて、収益状況など公開されていますが、何かこの件につきまして、お気づきの点があればおっしゃってください。</p>
伊勢委員	<p>先程の件ですが、例えば、車・バイクからの乗り換え率と高齢者の外出増加率は、調査の問題で減少しているのではないかということでしたが、バスを最初使ったが、不便になったため車へ乗り換え、従来と変わらなくなったという可能性もあるかと思いますが、もし、それがなかったとして、調査の方法ですが、このアンケートを継続的に行っていく場合には、2時点で聞くよりは、現在のことを数字で聞いて、何人の人がそのとき車・バイクを利用しているか。それを前回、前々回の分と比較するという方法です。一人当たり週に何回車に乗っているかと比較すれば、どれくらい増えたか、減ったかは把握できると思います。そういう調査にすれば、目標値というのを大きく変更していかないといけませんが、そんなやり方もあるのではないかと思います。</p>
事務局 (松坂)	<p>アンケートについては、いろいろと教えてもらいながら進めたいと思います。</p>
向井会長	<p>地元の方はよく会合をされたり、自治会として、先程のふれあいトークなどでも非常に要望が高かったということで、地元の方も熱心に、乗車を促進する啓発事業といったことを定期的にされているのでしょうか。</p>

事務局 (水上主査)	<p>これにつきましては、先程の補足になりますが、烏帽子台の停留所を追加するときに、もともと地域と話をしていて、現在の楠ヶ丘の人口を考えると、一定の限界もあるだろうということで、烏帽子台が大体人口600人ぐらいいらっしゃるので、新規開拓してはどうかと、地域の方と話をしていた中で、昨年の11月に楠ヶ丘地域の方々和我々で、烏帽子台自治会の役員会に行かせていただき、そこでいろいろと話をさせていただいたのですが、我々以上に地域の方が熱心にお話していただきまして、役員会の終了後に烏帽子台の役員の方々に、烏帽子台の中も回るということを検討していただいた結果、烏帽子台につきましては、小さな子供達が多いので、日中ずっと走ることは危ないということでしたが、6月のアンケートで烏帽子台地域にもアンケートを配らせていただいております、その中で烏帽子台の住民の方でも烏帽子台も回ってほしいというご意見がたくさんありましたので、そのことも含めて烏帽子台の自治会に伝えたところ、中を回るのは危ないので、烏帽子台の住宅に入る2カ所のメインの入り口があって、その間ぐらいになりますが、停留所を設置してはどうかということになりました。今までは烏帽子台の方でも使っておられる方は3番から乗っておられて、これは結構距離がございまして、実際に2番3番の間も距離が長いのでそのあたりに作ってはどうかということで、烏帽子台の方々とお話をして決定したものでございます。</p>
日野副会長	<p>評価指標というのは、利用状況や地域での活動などは、ある一定上がっていてもいいと思いますが、先程の外出率や乗り換え率など、必ずしもずっと上がっていくものかどうか分からないので、むしろある意味付加的な効果と思うのです。バスを使ってもらえれば、車が減るというのは当然ありうる話ですね。車を使うのが減れば環境がよくなるなどの意味があり、プラスになっていくなど、外出率が増加すれば、高齢者の方々の健康にもいいでしょうし、まちの活性化につながるとなればいいわけではありますが、これ自身が独立して、どんどん増えていくと設定するようなものでもないと思います。ですので、一定のレベルの設定を維持するほうがいいと思うので、あまり上げたり、下げたりという設定の仕方はどうなのかと思いますので、それは検討いただきたいと思います。もうひとつは、現状維持ということであれば、それはそれでいいのですが、増やさないといけないという場合、この事業で言えば、楠ヶ丘の地区内では、二丁の面から限界があるかもしれないから、エリアの対象を広げて増やしましょうという取り組みは、そういう戦略を持って、目標というのがそれに対応しているということが必要だと思うのです。そのあたりの目標の設定については、考えていただいて、どんどん高くないといけないという目標にはならないようにと思います。現状維持で続けるものや、一定これ以上あれば、効果があると見なせるものは、その値でいいと思います。これは評価指標ですので、現実には、これが達成できな</p>

事務局 (井上課長)	<p>ければだめ、というような評価もされかねないわけですので、過度な指標を設定するのはいかがかなと思います。今回はこれでいいかと思います。毎年、毎年、数値が変動するということについては、お考えいただいて、検討いただいたらと思います。</p>
日野副会長	<p>只今ご意見いただきましたことについては、参考にさせていただいて、来年度以降の目標設定などに取り入れたいと思います。収支状況等につきましては、25年度は65%としておりますが、新たにお客さんを増やすための事業にはお金がかかってきます。そのときには当然、収支率の設定が逆に低くなるような目標をたてるということが出てきます。そのあたりの一部については昨年度の変動も、止むを得ないのかと考えております。</p>
日野副会長	<p>目標と予測というのは違うので、将来的にこの乗合タクシーをどのようにしたいのかということですが、100%採算ベースに乗せるというものもあれば、そうでないものもありますし、今おっしゃられたように、同伴割引などをやって、たくさん乗ってもらおうなど、必ずしも収支に引っ張られることは問題があります。それでも、このバスについては目標を持ってやりましょうというのは、一定維持したほうがいいと思います。ただし、今年度、来年度にはこんなことをするので、そのときの目標は収支よりもむしろ乗客数ですということを決めておけば、目標を下げる必要はないと思います。目標を下げるということは、このバスの事業を今後どう展開していくかということそのものに関わると思いますので、そのあたりの理解の仕方だけは、これがあるから次は下げるではなくて、目標は目標として、実際はこういうことをやることによって、下がるかもしれない、だが、それはこういうことを目的にするので、そのときの目的の資料はこっちの方を優先的に評価しましょう、などというような見方の方がいいと思います。</p>
向井会長	<p>楠ヶ丘地域の乗合タクシーについては、非常に順調よく進んでいるので、そのところについては、またいろいろ検討していきたいと思います。</p>
日野副会長	<p>一点だけ、先程も申し上げましたが、せっかく市民の方にご協力いただきましたので、学生さんが調査した中で、駅で市民の方に配布させていただいた調査もありまして、これはバスを乗る人乗らない人を含めて、調査票を一枚配布させていただきまして、回収率が4割を超えていましたので、極めてバスのことについて、関心が高いのだなと思いました。学生がアンケートをやりたいというので、やらせていただきましたが、2割ぐらいの回収かと思っていましたが、実際4割以上の回答がございまして、一つはバス、公共交通に対する関心があるということと、その中で楠ヶ丘の方は楠ヶ丘でやってお</p>

	<p>られますが、それ以外のモックルの話も、先程ありましたように、路線バスとの料金の調整の話についても、本来コミュニティバスが路線バスと競合しないように駅に行かないということの中で、ある種冒険ですが、例えば、日曜日の同伴でいうと、先程ありましたように、駅に行くことが、買物のお客さんを増やすことになるわけですね、ですからそこを少し整理しないといけないかと思います。基本的にはコミュニティバスといわれているものが、走っている区間の同じ区間に平行してある路線バスについて、料金を過度にならないように、同一料金にしましょうという、一つのルールを限定しておかないと、どこでも路線バスは200円にするという話になると、事業者さんも困るし、基本的にゾーン料金にすれば基本的に問題はないのですが、難しい面もあるかと思うので、そういう意味では、コミュニティバスの料金の仕組みの中で利用者の方々から見れば同じ料金で、しかも先程ご説明いただいたように、便数が2倍になる、便利になるということですし、日曜日は同伴者を連れて駅で買物もできるとなると、平日は病院に行かれる、そして休日には駅で買い物され、同伴者割引が使える、というような複合的なものに対して、調査をして、肯定的といいますか、そういう理由なら使う割合が高かったということでした。ひとつずつやっている、ここはどうするのか、もめることにもなりかねないので、事業者さんのご意見もお伺いしながら、料金体系は、コミュニティバスと路線バスとの関係や、お客さんをどうやって増やすかという中で、仕組みとしてご検討いただければいいのではないかと思います。調査の結果でもそういう答えが多かったので、ご紹介させていただきます。</p>
<p>向井会長</p>	<p>市大の学生さんが、河内長野市でアンケートをとということでしょうか。</p>
<p>日野副会長</p>	<p>一緒にいろいろやられている学生さんの方で調査を行わせていただきまして、参考として、資料は事務局にお届けさせていただいております。その中で今のモックルと路線バスだとか、バスを使うか使わないかわからないですが、駅で配った人の中でも同伴の割引があればどういうふうに使われますかという質問を同じようにさせていただきました。一般的な意見として、あまり使わないが、そうなら使う、また、誰とどこに使うなどとお聞きしているので、もう少し詳しい内容をのせております。そういったものも、参考にいただければいいのではないかと思います。その一つとして先程の料金について、ケースバイケースよりは少しご検討いただいたらなと思いました。</p>
<p>向井会長</p>	<p>学生さんがやっていただいた結果を参考にして、次のプログラムへつなげていただけたらと思います。それでは次の議題に移ってもよろしいでしょうか。</p>

向井会長	<p>【議題5】</p> <p>議題5のバス利用の手引きとバスマップの作成ということで、事務局から説明お願いいたします。</p> <p>(事務局より、バス利用の手引き・バスマップの作成について、資料5の説明)</p>
向井会長	<p>委員の皆様もいろいろなところへ出かけられるかと思います。自分のお住まいの都市などを含めて、こうすればもっと使いやすい、というようなことを教えていただければ、回数を重ねて、いい形にしていければと思います。</p>
伊勢委員	<p>これは初めての試みですので、基本的なバスマップという位置づけだと思うのですが、まず、この情報がいつの時点の情報なのか、また運行事業者の問い合わせ先などがあっていいかと思います。いろいろな地域のバスマップでも、基本的にこの2つは入っているかと思います。観光が入っているかと思いますが、休日のバス利用を増やすというのであれば、買物施設などの紹介も入れたほうがいいのではないかと思います。</p>
日野副会長	<p>ここには、楠ヶ丘乗合タクシーなどは入らないのでしょうか。</p>
進士委員	<p>路線の系統によって、運行本数が違うと思いますので、ある程度わかるようにしていただければと思います。私の地区であったのは、運行本数によって点線にしたり、太線にしたり、線を変えるなどをされているところもあります。また、河内長野や三田市などの主要駅の時刻表があれば、この系統がどれくらい走っているというのがわかると思います。まだ作成途中ということですが、地名などは地図の中に落としていただくほうがいいと思います。</p>
日野副会長	<p>商工会などタイアップして、広告を掲載するということは考えておられないでしょうか。レイアウトの問題もあるかと思いますが、こういうものが自立的、継続的に作れるとしたら、そういったお願いをしてはどうかと思います。伊勢委員がおっしゃられたような、広告を出しておけば、商業施設なども積極的に来てもらえるかもしれませんし、そのあたりのお考えはありますか。</p>
事務局 (水上主査)	<p>2期計画でも書いていますが、観光との連携で、第2期計画の中では路線バスによる、奥河内の観光資源までのアクセス方法ですとか、そういったチラシの作成を考えておりますが、それも含めてバスマップで掲載するなど、今回いただいた意見を検討して進めたいと思います。まずは、基本的なベースを作成して駅、公共施設、商業施設など、まず河内長野に来た人が見てすぐ</p>

日野副会長	<p>にわかるような、マップのベースを作りたいと考えております。</p> <p>よく行った先で、無料でもらえたりしますが、お金をかけたものはすごくいいですね。それには必ず広告が入っていますし、税金だけでやろうとすると財源の問題もありますし、カラー印刷して、いいものを作ろうとすればお金もかかりますね。普通の紙で作るとあまり皆さんに見てもらえない。持続的にしようと思えば、予算がないのでやめるというのも問題ですし、観光や商工などと一緒作っていくなども必要でしょうし、それを考えるとレイアウトなどは、大幅に変わってしまうと思うのです。今のものであれば、全然入るスペースはありませんね。これでいくのか、そういうものも最初から考えてレイアウトしていくのか、中身としては全体のスペースなどの問題によって入れる情報も変わってくると思いますが、公共性の高い、役所が作るものであれば、これでやりますというのもひとつだと思います。もっと民間に入っていて、もっと見やすいものを作るということであれば、そもそものレイアウトが変わってくると思います。そのあたりの方針というものを聞きできたらと思います。</p>
事務局 (水上主査)	例えば、まわりに有料広告を掲載する方法などは検討しております。
日野副会長	それは民間の方にご意見を伺いながら進めていたりするのですか。
事務局 (水上主査)	これからです。
日野副会長	民間の方たちがそれで乗ってくるかもわかりません。我々だけで、こんなことをしようと思っても、民間の間で何もメリットがないとなれば、成り立ちませんので。
内見委員	作成する場合は広告や協賛などが非常に多いです。産業の方も活性化しないといけませんので、ターゲットを誰に、どれぐらいの量を、いつ更新していくか、などを決めなければ、費用も決まらないと思います。また、観光客に出すのか、市民に出すのかでも変わってくると思いますので、観光であればグルメを中心にのせたりしますし、市民でしたら生活必需品のお店ものせるなど、そのあたりの方針だけ決めていただければ、その後のこともやりやすいかと思います。
日野副会長	家ではそれを貼っておけるような形で、中にお店がいろいろ書いてあったり、

	<p>観光に来た方へのマップであれば、携帯できるようなものでしょうし、あるいは市民の方でも高齢者の方でなかなか覚えられないという人には、持ち歩けるものなど、使う側のニーズというのがかなり違うと思いますので、そういった方にも入っていただいて、考えるという方法もあるのかなと思います。</p>
阪上委員	<p>観光であれば、主に高野街道マップ。2万円で10数件の記載をしました。業者にすればかなり効果があるということで、今年もあるんですが、それはまたスポンサーの募集をかけます。かなり申込みはあります。</p>
向井会長	<p>ターゲットを絞って、コンサルティングのようなアドバイスをいただきながら進めていくということで、これは印刷などは、印刷屋さん等に話をしてこのベースですか。</p>
事務局 (水上主査)	<p>純粋に事務局だけです。</p>
阪上委員	<p>高野街道マップの場合は、高野街道祭りの実行委員会が主でやっております。</p>
濱田委員	<p>マップがメインになるのであれば、外の面をそういった広告会社やスポンサーをつけて、少しでも経費が上がらないように考えればいいのかと思います。観光の場合でしたら、観心寺や、金剛寺、奥河内、高野街道、これを一体にしたものを観光課で作っていただいておりますので、バス路線がわかる河内長野市全体のマップはいいと思います。</p>
向井会長	<p>池谷委員、これはバスマップだけになってますが、タクシー会社としてこんなふうにしてもらえたらなどありましたら。</p>
池谷委員	<p>いいものですね、一目瞭然でわかりますから。ですが、くすまる以外に路線というものはありませんし。お年寄りには最高ですね。</p>
濱田委員	<p>河内長野の路線がはっきりわかりますから。できれば日野先生がおっしゃられたように手帳式などですね。何度か折りたたんだりしますと、破けてきますし。</p>
日野副会長	<p>いいものを作ろうとすれば、お金がかかりますね。</p>
濱田委員	<p>これはこれとしてすればいいのではないかと思います。河内長野市の一市民として、一家に一枚は置いておくという形であればいいと思います。</p>

向井会長	南海さんはいろいろな公共交通を運営されていて、こんなマップを作っているなどの事例はございませんか。
南海バス	他の市さんではないです。他の市ですと、あちこちから路線が入るので、作ると本当に複雑でわかりにくくなってしまいますが、河内長野市さんの場合はある程度独立しておりますので、そういう意味では活用しやすいのかなと思います。
井戸委員	どれだけの予算をかけるかということと、路線だけであればこれで十分ですね。ただ、おっしゃられるように、観光や産業などであれば違ってくるのかなと思います。裏は利用手引きということで、まだここには何か入るのでですね。まだいろいろなことをお考えだと思います。広告代は協力しないといけないのであれば、安くしてくださいね。喜んでする場合とそうでない場合がありますので。感じたのは、おそらくこのまま進むと非常によくばったものになるのではないかと思います。それなら簡単なもので河内長野発着のものでもいいですし、三田市町発着のものでもいいと思います。このマップでは路線しかわかりませんので、私たちは仕事から何町というのはわかりますが、市外から来た方にはおそらくわからないと思います。いろいろなボタンをつけるのであれば、市のホームページと連動させるなど、今は携帯でかなり地図が見れますので、行き先の確認など、そこを携帯で見ると案内のページが出たり、タブレットなども使う方もおられるので、そういうことをされると逆にこっちが簡単にすむのではないかと思います。私が作成するのであれば、逆に思いっきりよくばります。必要なものと今すぐ必要でないものをいろいろな人の意見を聞いて、後から追加するのは難しいので、できるだけ追加するものを予想しておいて、必要なものだけ絞っていかれたらいいのかなと思います。楽しいものができるのを期待しております。
南條委員	まず市民、先程おっしゃられていたように、家の壁に貼ってすぐわかるバスということをもっとお考えになって、観光は観光で、市の観光のセクションがあると思います。観光も非常に力を入れられているので、全部取り込むのも大事かと思いますが、まず原点が市民の足ということですので、誰が見ても一目でわかるようなものがないのではないかと思います。
黒田委員	色々な意見を聞いて、やはり利用する方の目線が大事なので、実際利用している方がどういう情報がほしいのか、そこが大事だと思います。アンケートもいろいろ取られておりますので、実際こういうマップを作るときには、どういう情報が利用者の方には知りたいのか、それをどれだけ反映させられるか、というのが大事だと思います。なかなか私どももいいアイデアというのが出な

	<p>いので、むしろ利用者の人が、何がほしいかということをお大事にしてくださいければいいのかなと思います。楽しいものを作るというのは非常にいいことですので、先程、井戸さんが言われたように、全くその通りだと思います。どんどん出して、その中で今できるもの、必要なものは何なのかということをお整理、まとめていくというのが一番いいのではないかなと思います。</p>
<p>進士委員</p>	<p>下図なのですが、これは地形図ですよ。既成の地図の方が地名があって、慣れ親しんでいるものの方がわかりやすいのかなと思います。情報を入れていけば仕上げが大変ですので、ベースにもともと書いている分はそのままという形でスタートすれば、いいかなと思います。</p>
<p>松本委員</p>	<p>いい地図ができると思いますが、たくさん資料をのせて、削除していくのがいいのではないかなと思います。</p>
<p>堂上委員</p>	<p>地図を見ると、少し見にくいかなと思います。AやBなどが書いていて、バス停名が書かれている部分の方が、私には見やすいかなと思います。市民対象であれば、ほんとに簡単でいいかなと思います。Aコースはこういう経路でいくなど、どこに行くのか市内にはわかると思うので、イベントの情報は必要ですが、広報などにこういう形でバスをもっと利用しようなどであれば、こういう形でもいいかなと思います。下の表と地図を合わせて見るのであれば、見にくいので、こういったものはいらないのかなと思います。一番はどうやって利用するのかということなので、バスカードの販売場所などが書いてあるのはいいかなと思いますが、時間などの記載がありませんし、割引制度や、往復割引のメリットなどがのってれば、市民の方が利用するというのであれば、それぐらいでいいのではないかなと思います。</p>
<p>日野副会長</p>	<p>お聞きしたいのですが、市民が利用するのであれば、家に貼っておくのか、持ち歩くのとどちらの方が使いやすいのでしょうか。</p>
<p>堂上委員</p>	<p>大きい方が見やすいので、貼っておいて、ここからここまでは何分ぐらいかかるなど、だいたいの目安で書いてくださったら、個人的な意見ですがいいと思います。</p>
<p>日野副会長</p>	<p>コンパクトに折ってあるのはいいのですが、このままであれば、どこかに紛れてなくなるのではないかなと思いますので、貼っておく方がなくならないし、見やすいと思うのです。旅行者の方にとっては、この大きさでは携帯しにくいので、用途に合わせた形というものもあると思います。そのあたりは是非参考にされたらいいのではないかなと思います。</p>

向井会長	はい、ありがとうございます。では、よろしいでしょうか。
向井会長	<p>【議題6】</p> <p>議題6の平成25年度河内長野市地域公共交通会議予算の（案）について、事務局お願いいたします。</p> <p>（事務局より、平成25年度河内長野市地域公共交通会議予算の（案）について、資料6の説明）</p>
向井会長	事務局から25年度の予算ということでしたが、何かご質問等ございませんでしょうか。このような形で25年度の公共交通会議の予算執行についてご了解いただければ、連携計画の事業を進めていきたいと思いますが、よろしいでしょうか。ありがとうございます。最後になりますが、その他の件で何かご意見などございますでしょうか。
阪上委員	コミュニティバスについてですが、身体障がい者の方々はこのバスを利用しているのでしょうか。付添人も必要ですし、車いすの方も乗ることができるのかということと、その方の運賃などを教えていただきたいです。
事務局 (井上課長)	基本的に南海バスさんと同じ割引にさせていただいております。身体障がい者の方のご利用であれば50%の割引となっております。タクシー等もタクシー会社さんのご協力で1割程度引いていただいております。
向井会長	介助の方は割引はあるのでしょうか。
事務局 (井上課長)	手帳に介護人が必要であるような場合は介助者の対象となって、同じ半額になります。
向井会長	利用者の状況はわかりますか。
事務局 (井上課長)	集計には入れておりません。
濱田委員	関連して認知症の問題がありますが、南海バスさんにも団体から申請を出していると聞いていますが、認知症の場合はまだ、バス会社の方も対応しておりませんよね。緑ヶ丘の医師会の先生から団体で署名運動をしております、その問題は国土交通省にも通達されていますよね。

進士委員	新制度の確認ということで、そういった要望が出たのではないかと思います。対象、範囲を広げるといふ署名をされたのかもわかりません。その情報は来ておりません。
濱田委員	署名運動で各自お願いいたしますと来てますので、これは福祉協議会の管轄になりますので、我々老人会と一緒に、そんなことがありましたので、この場の関係ではないのですが、お尋ねさせていただきました。それとさしあたって、線によって渋滞する所がありますので、道路ができれば早くかからないと、上原から緑ヶ丘の線、要するに河内長野から緑ヶ丘のバスの開通は来年になるのですか。渋滞になれば、一方通行にしても、なかなか渋滞で赤峯の交差が行き来できなくなってしまいます。テニスコートから狭山に抜ける線は完全に渋滞しますので、対応の仕方を、バス会社さんもそうですが、国土交通省も早くやっていただかないと、あの地域は本当に困ると思いますので、よろしくお願いします。
向井会長	全般通してよろしいでしょうか。事務局お願いします。
事務局 (井上課長)	冒頭で申し上げましたが委員の方々につきましては、この3月末をもちまして、任期終了となります。また、来年度4月から新たに委員を選任させていただくことになるかと思っておりますので、引き続きお願いする場合がありますし、そのときはまた、よろしくお願いします。このメンバーでの最後の会となりますので、長い間ありがとうございました。来年度もよろしくお願いいたします。
向井会長	今、事務局からもありましたように、委嘱の年度につきましてはちょうど24年度で区切りということで、新年度、引き続き委員をお願いいたします委員の方々もおられると思いますので、是非よろしくお願いいたします。それでは、24年度の第16回の河内長野市地域公共交通会議を閉会したいと思います。本日はお忙しい中ありがとうございました。

河内長野市地域公共交通会議委員名簿

平成25年3月5日（火） 午後3時から 河内長野市役所 501会議室

	氏名	所属・役職	代理出席
会長	向井 一雄	河内長野市 副市長	
副会長	日野 泰雄	大阪市立大学大学院工学研究科 教授	
委員	伊勢 昇	和歌山工業高等専門学校環境都市工学科 助教	
委員	南條 正幸	国土交通省近畿運輸局大阪運輸支局総務企画部門首席運輸企画専門官	
委員	黒田 唯雄	国土交通省近畿運輸局大阪運輸支局輸送部門首席運輸企画専門官	
委員	進士 肇	大阪府 都市整備部 交通道路室 都市交通課 公共交通計画グループ 課長補佐	
委員	森口 治	大阪府富田林土木事務所 地域防災監兼地域支援・企画課長	
委員	川幡 一哉	大阪府河内長野警察署交通課長	太田
委員	松平 康一	南海バス株式会社企画部企画課長	
委員	奥村 夏男	南海バス株式会社営業部営業課長	
委員	坂本 頼幸	南海バス株式会社 労働組合代表	
委員	池谷 育晃	大阪第一交通(株) 河内長野営業所長	
委員	椋本 専次	近鉄タクシー(株) 藤井寺総合営業所長	欠席
監事	濱田 義夫	河内長野市老人クラブ連合会会長	
委員	阪上 明	河内長野市観光協会相談役	
委員	井戸 清明	河内長野市商工会理事	
監事	松本 甫	市民代表	
委員	堂上 明子	市民代表	
委員	田中 健一	河内長野市健康増進部長	欠席
委員	内見 宏昭	河内長野市産業振興部長	
委員	宮川 祐次郎	河内長野市都市建設部長	
委員	辻野 修司	河内長野市総務部長	
委員	中谷 眞久	河内長野市市長公室長	